

3月の植物

サツマイナモリ *Ophiorrhiza japonica* Blume (アカネ科)

各地の林縁、登山道沿い、林道沿いなどやや薄暗い場所に生える多年草で、茎は枝分かれして地上を這い、大群落となる。高さは10～25cm、葉は対生し、濃緑色でやや光沢があり、へりは波打つ。葉柄のもとには左右連合してここに小さな2対の托葉がある。花は白色のラッパ型で横向きに咲き、枝先に長さ2cm弱の花を10～20個密につける。花冠は筒型で先は5裂し、裂片の内側に白い毛が生える。おしべ5は花冠筒の内面につき、めしべ1は柱頭部が深く2列する。株によって花に2型があり、めしべの長い型と短い型があつて、よく注意してみると花色が少し違って見える。花期は12～5月。佐賀では、3月下旬頃に満開を迎えるところが多い。昨年の観察会では3月の武雄の潮見神社、9月の朝日町の湯の谷、10月の鹿島市の奥平谷で観察した。同じ仲間のイナモリソウは佐賀県では現状不明種で過去に2か所で記録されている。名前の由来を調べてみると、三重県の稲森山で最初に発見されたので稲森草(イナモリソウ)の名前があり、薩摩稲森(サツマイナモリ)は薩摩産の稲森草(イナモリソウ)の意味である。(小池英毅)



2017. 2. 8

武雄市朝日町繫昌ダム上 湯の谷

(円内は正面から撮影)